



第9回全球エネルギー・水循環プロジェクト国際会議（GEWEX-OSC）開会式

第9回GEWEX-OSCが開幕

第9回全球エネルギー・水循環プロジェクト国際会議（GEWEX-OSC）が2024年7月8日（月）、京王プラザホテル札幌において開幕した。48カ国と地域から890件の発表登録（約1000人が参加）があり、12日（金）まで開催される。今回会議のテーマはWater●Climate、水●気候である。

今回、コロナ禍明けでは初めての開催となり、過去最高の参加人数だった第7回オランダ（ハーグ）の560人を超え、史上最大のGEWEX-OSCとなった。



開会式は600名が参加し、Peter van Oevelen 国際GEWEX事務局長、山田朋人国際会議組織委員長に続き、岸田文雄総理大臣からのメッセージが披露された。



続いて、日比谷潤子日本学術会議副会長、寶金清博北海道大学総長、秋元克広札幌市長、Detlef Stammer 世界気候研究計画合同科学委員会委員長が登壇した。

全球のエネルギー・水循環に関する最先端研究の英知が集い、活発な議論とその成果の社会への還元が期待される。

表 過去大会の開催地と人数など

年	国	都市	人数	国・地域
1994	英国	ロンドン	300	20
1996	米国	ワシントン	300	20
1999	中国	北京	280	24
2001	フランス	パリ	250	20
2006	米国	コスタ・メサ	300	23
2009	オーストラリア	メルボルン	400	32
2014	オランダ	ハーグ	560	45
2018	カナダ	キャンモア	380	40
2024	日本	札幌	1000	48



岸田文雄 内閣総理大臣メッセージ

「第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議」が札幌において開催されるに当たり、世界の国・地域からの参加者の皆様に対し心から歓迎を申し上げます。また、この会議が、日本学術会議、第九回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議組織委員会及び全球エネルギー水循環プロジェクト国際事務局の共同主催の下に開催されることをお慶び申し上げます。

この度の国際会議が、エネルギー循環、水循環及び炭素循環分野の発展に貢献し、多大な成果を収められることを心より祈念いたします。」

内閣総理大臣 岸田文雄

こやり隆史国土交通大臣政務官が講演

基調講演において、こやり隆史国土交通大臣政務官が講演した。

国土交通省の取組みとして、気候変動の将来予測データを活用した治水対策と気象予測データを活用したハイブリッドダムの取組について紹介した。気候変動に伴い深刻化する洪水や渇水、水循環の維持・回復などの課題に対して、国際協力の重要性を強調した。

官学連携の研究や社会実装が進展し、「WATER BY ALL」の考え方が共有されることを期待して講演を締めた。





プレナリーセッション

NASAのKaye博士、JAXAの沖博士、北海道大学の山中教授、NOAAのFindell博士、京都大学の中北教授が登場し、全球規模の観測、ノーベル物理学者真鍋博士の業績、日本の水害対策などについて講演された（参加者：550名）



ステークホルダーセッション

日本においては、他国に比べ、科学的・学術的な知見に基づいた気候変動適応策等の社会実装が進んでいるという実態に注目が集まっており、今般の第9回GEWEX-OSCの開催地として日本が選定されたことの背景のひとつとなっています。

このため、日本における水災害リスク評価、流域治水、気候変動適応策、途上国での施策と連動した取組等を、各国から集う研究者等に向けて発信したり、海外の最先端の技術者たちと議論、意見交換を行ったりすることを目的として、ステークホルダーセッションを開催するものです。

ステークホルダーS [気象業務センター]

アジアにおける水循環変化:気候要因から適応へ～気候災害予測に関する高度な情報を一般市民に伝えるには



イベントアトリビューションや、気候変動予測、人の活動を考慮した災害評価等についての講演が行われ、その後、科学と社会とのギャップを埋めるというテーマでのパネルディスカッションが行われた。（参加者：54名）

ステークホルダーS [東京都]

東京都における気候変動を踏まえた風水害に対する取組み



気候変動による降雨量の増加が見込まれる中、人口と資産が集積し、高度な土地利用がなされている東京都において、風水害に関してどのような取組みが行われているかが紹介された。（参加者：44名）

ステークホルダーL [国土交通省]

気候変動影響予測を活用した洪水リスクの評価、治水対策の展開これまで日本が実施した、最新の降水リスク評価や治水計画の見直し、さまざまな関係者による流域治水について、現在の取り組み状況や海外との連携、今後の方向性について国内外の研究者や行政関係者を交えて議論した。（参加者：154名）



学術セッション29

洪水研究の進展、その予測、影響評価、緩和戦略
洪水研究、その予測、影響評価、緩和戦略の進展に関して多くの研究発表が行われた。（参加者：120名）



学術セッション3

地域水文気候システム研究
日本の大雨再現性、アメリカ大陸における各種気象要素の経年トレンドおよび将来予測、日本・台湾の過去の台風、機械学習による河川流域予測等の研究成果が発表された。（参加者：220名）

学術セッション13

山岳・寒冷地（雪氷圏）の水循環
寒冷山地における物質循環及び気候に関する数値解析や観測に関する包括的な研究発表、極端現象の解明に向けた議論が交わされた。（参加者：120名）

学術セッション6

対流の組織化:プロセス理解から
ハイインパクトな気象・雷警報まで
極端な降水や雷の発生につながる対流システムについて、メソからグローバルスケールまで様々な観点での研究成果が紹介された。（参加者：235名）

学術セッション18

宇宙からの水循環観測
衛星観測および降水観測レーダーそのデータを活用した長期の全球降水量や河川流量を推定する方法、地域での活用事例が発表された。（参加者：340名）

ウェルカムレセプション

初日の夕方には、ウェルカムレセプションが開催され、660名の方が参加した。
鈴木直道北海道知事が開催地北海道の代表として歓迎の祝辞を述べ、ゼロカーボン北海道として掲げる気候変動対策などを紹介した。

